

ロジャー・ボボ

マスタリング・ザ・チューバ 完結版

P 2

イントロダクション

楽器とは音楽を表現するための道具ではありません。しかし音楽を表現するためにはその道具を使いこなせる技術が必要です。音楽を演奏するためには、楽器という道具を使うための技術が上達し、維持されなければならないのです。私は生徒に対して、音楽が何よりも大切だと教えています。この事は正しいと今でも強く信じていますが、自分がしたいと思っている音楽表現をするためには演奏技術も必要なのです。この本はその演奏技術を上達、維持させるためのものです。エクササイズは私のオリジナルと、他の楽器から引用し修正したものもあります。

奏者は自分自身に最適なウォームアップを捜すべきです。最適なウォームアップは当然個人個人で違うはずで、日によって変わることもあるでしょう。そこがポイントです。どんなに良いエクササイズでも全ての人に最適なウォームアップであることは不可能です。しかしこの本が、あなたに合ったウォームアップを捜す手がかりができることを、私は心から願っています。

この本に載っているエクササイズは容易に暗譜できると思います。暗譜できたら、できるだけこの本を見ないでください。そしてほんの少しでもウォームアップを毎日変えてください。違うウォームアップを試す勇気を持ちなさい。この本に載っているエクササイズは自分に最適なウォームアップを捜すスターティングポイントでしかありません。自分自身の先生になりなさい。我慢強く、賢く、優しい先生、またあなたが個人的に必要な事によく気が付き、音楽をすることの喜びを知っている先生になりなさい。

四つの質問

もし自分の演奏に問題があると思った時、まず吹くのをやめなさい。深呼吸をしてから自分に尋ねてみるのです。

- ・何が起きたのか。
- ・どこで起きたのか。
- ・どうして起きたのか。
- ・どうやって直すのか。

なぜト音記号なのか

トランペット奏者はいろいろな調の楽器を吹く機会が多く、音域や調性、アンサンブルのサイズによって、その曲に最も合ったトランペットを選ぶことに慣れています。

この傾向はチューバ奏者の間にも受け入れられるようになってきました。BB♭、CC、E♭、F管又はB♭テナーチューバ(ユーフォニアム)など多くの種類の楽器で演奏されることが珍しくありません。時には非常に珍しいD管やG管で演奏されることさえあります。

この本をいろいろな調のチューバ(あるいは他の金管楽器も含め)で吹くために、ほとんどのエクササイズがト音記号で書かれています。

P 3

※エクササイズは調はチューバの調によって変わる。

ト音記号で書かれたエクササイズは使われるチューバの調で吹いてください。こうすることで、楽器によっては音域外で吹かなければならないような移調をする必要がなくなります。またこれはどんな調のチューバを使っても同じフィンガリングパターンになるということです。例えばBB♭管で開放の指で始まるエクササイズはCC管でも開放で、E♭管やF管でも開放の指で吹いてください。

技術面

姿勢と楽器のポジション

チューバの持ち方は自然でなければなりません。楽器を吹く姿勢でマウスピースを口に当てたとき、体はリラックスできていなければなりません。背を高く伸ばさなければいけなかったり、低く曲げるようではだめです。良い姿勢で吹くことは自然に息を取るのを助けるだけでなく、見た目もいいのです。左手は楽器を安定させるために重要です。左手で楽器をしっかり支えられると、右手は自由に指を動かせるようになります。

アンブシュア

音楽家のなかで、体の一部を振動させて音

を出すのは声楽家と金管奏者だけです。唇は体の一部なので、唇を大切に健康にしておかなければなりません。100mを全力疾走するとき走者はストレッチングをします(ウォームアップ)。バレエダンサーは踊る前にバーを使ってやはりよくストレッチングをします(ウォームアップ)。もっと演奏に近い例をあげると、声楽家は発声練習をせずに歌を歌いません(ウォームアップ)。

音を出すための唇と、唇を振動させるための呼吸はいつもいい状態を維持し、訓練していなければなりません。

P 4

プレス

息は全ての管楽器の発音の元です。呼吸法や演奏上の息の使い方はとても興味深い研究になるかもしれません。しかし演奏する時にはできるだけ単純に考えなければいけません。私たちは皆同じではありません。体型はそれぞれ違い、息の取り方も違います。

深呼吸するとき息の音を聴いてもらなさい。静かでスムーズな音がするでしょう。もしどこかが閉まっているような音がしたら、親指を口のなかにいれてもう一度深く息を取りなさい。そしてのどを通る息の冷たさを感じてください。唇や歯を閉じて空気の音をたててはいけません。胴、胸、おなか、背中、体側などが自然に広がるようにしてください。

演奏する時には次の三つの事に気をつけてください。

- 1) フルプレスを取ること。
- 2) できるだけ最初の三分の二の息を使って演奏すること。最初の三分の二の息は残りの三分の一の息よりもずっと安定していてコントロールしやすい。残りの三分の一の息を使わなければいけない時もしばしばありますが、息がなくなる前に休符のところでプレスを取れば、残りの三分の一を使わずにすむことがほとんどでしょう。
- 3) 低音域は高音域よりも多くの息が必要。同じ音量の場合、オクターブ下の音はオクターブ上の音の約二倍の息が必要です。低音域のピアノシモが中音域のフォルテよりも息が必要なることもあります。



Roger Bobo

Français:

Que ce soit au tuba ou comme pédagogue, la renommée de Roger Bobo est aujourd'hui mondiale. Diplômé de la prestigieuse Eastman School of Music de Rochester (USA), il a été successivement tuba solo du Rochester Philharmonic, du Royal Concertgebouw Amsterdam et du Los Angeles Philharmonic Orchestra. A Los Angeles il a également été très actif comme musicien de studio dans l'industrie cinématographique hollywoodienne.

Depuis 1990, Roger Bobo s'est installé en Europe où il est très fréquemment sollicité comme soliste et ses cours de maîtres pour cuivres, très appréciés, lui valent des engagements dans le monde entier. Il est professeur titulaire des conservatoires de Fiesole (Italie), Lausanne (Suisse) et Manchester (Grande-Bretagne).

Il réside actuellement au Japon où il enseigne à la Musashino Academy à Tokyo. Roger Bobo a incité de nombreux compositeurs contemporains à écrire pour le tuba et a enregistré sept disques (Crystal Records, USA).

English:

Roger Bobo is one of the world's most renowned tubist and brass pedagogues. He is a graduate of the prestigious Eastman School of Music and has successively been principal tubist with the Rochester Philharmonic, the Royal Concertgebouw Amsterdam and the Los Angeles Philharmonic Orchestra. He was also very active as a studio musician in the Hollywood film industry.

Since 1990, Roger Bobo has made his home in Europe, and has established himself as one of Europe's most popular brass soloist. Additionally, Roger Bobo is much in demand as a teacher of all brass instruments, presenting master classes regularly all over the world. He is a member of the brass faculties of the Fiesole (Italy), Lausanne (Switzerland) and Manchester (Great Britain) conservatories and resides actually in Japan where he teaches at the Musashino Academy in Tokyo. Many important composers have written music for Roger Bobo, and he has recorded seven releases for Crystal Records (USA).

Deutsch:

Roger Bobo ist einer der weltbekanntesten Tubisten und Lehrer für Blechblasinstrumente. Er hat sein Diplom in der berühmten Eastman School of Music erzielt und war sukzessiv Solotubist beim Rochester Philharmonic, Royal Concertgebouw Amsterdam und im Los Angeles Philharmonic Orchestra. Er war auch sehr aktiv als Studiomusiker in der Hollywood Film-Industrie.

Ab 1990 liess sich Roger Bobo in Europa nieder und wurde sehr schnell einer der beliebtesten Blechbläsersolisten dieses Kontinents. Er wird sehr oft weltweit für Blechbläser-Meisterkurse engagiert, unterrichtete als permanenter Lehrer an den Konservatorien von Fiesole (Italien), Lausanne (Schweiz) und Manchester (England).

Er lebt aktuell in Japan wo er an der Musashino Academy in Tokyo unterrichtet. Zahlreiche Komponisten haben für ihn Werke geschrieben und er hat sieben Schallplatten als Solist aufgenommen (Crystal Records, USA).

新しい曲を練習する時、ブレスをどこでとるかプランをたてなさい。そうすることで早く曲を理解でき、トラブルも減るはずです。曲を理解してきたら後で変更してもかまいません。

ブレス全体に言えることは、とにかく自然にブレスすること。それでかなりの問題は解決するでしょう。

タンギング

舌は発音の調節器官です。舌が息と一緒にどのように動くかが、いいアーティキュレーションの鍵になります。アーティキュレーションはよく言語の子音と同じに考えられます。T AやD Aなど。しかしこれはよく考えると違ってきます。声の発音体一声帯一は舌よりもうしろにあります。しかし金管奏者の発音体一唇一は舌よりも前にあります。同じ“T a”というシラブルでも言葉と金管の奏法とは違います。低音域でのタンギングは普通口の前の方、時には発音を確実にするために唇の間でつくことさえあります。

P 5

高音域ではぶつけるようなアタックを避けるために口の奥の方でタンギングすることが多くなります。

金管奏法では、舌によって発音していると考えより、舌と息が同時に発音していると考えたほうがいいのです。

ダブル・トリプルタンギング

あるスピード以上になるとシングルタンギング（ta ta ta ta ta ta）はごちこちなくなったり、間に合わなくなります。リズムの流れを保つためにはアーティキュレーションをダブルタンギング（ta ka, ta ka, ta ka）やトリプルタンギング（ta ta ka, ta ta ka）に変える必要があります。この教本はダブル・トリプルタンギングのエチュードではありません。（アーバンのようにすばらしいエチュードは他にあります）。しかし“ベーシック・ウォームアップ”のエクササイズはこの練習にも使えます（P.10）。他のアーティキュレーションを速いテンポで吹くのと同様に、ダブル・トリプルタンギングはアンブシュアをフォーカスさせ、アーティキュレーションをはっきりさせるのに役立ちます。

フィンガリング

チューバのフィンガリングでは現実的なことを考えなければいけません。チューバのバルブは重いので、できるだけ動きがよくなけ

ればなりません。バルブは上から下までスムーズなストロークを保ち、バルブの強さはそろっているべきです。バルブが戻ったときに弾まない方がよい。もしピストンバルブでこの問題があるなら、バルブを強くすることで解決できます。強いバルブはロータリーバルブでもこの問題を緩和することができます。またロータリーバルブでは押した時にあたる所に合成ゴムを、戻る時にあたる所にコルクを使った方がよい結果が得られます。コルクは撥ねにくいからです。

楽器を安定して支えるのは左手で、右手はフィンガリングのためだけに使えるように楽にしておいてください。

フィンガリングを簡単に言うと、音楽に合わせて正しいタイミング、正しいスピードでバルブを動かすということです。しかしチューバの音域は全般に低いので、フィンガリングがまず最初に不正確になってしまうことが多いのです。フィンガリングが不正確になった時、楽器を吹かずに指だけを練習すると良いでしょう。そしてフィンガリングが、クリアで正確なリズムを刻んでいるかどうかをよく聞いてください。

P 6 音楽面 音

音がなかったら、私たちには何もありません。音量を変えるものもなく、音程を合わせるものもなく、アーティキュレーションを付けるものもなく、リズムに付けるものやヴィブラートをかけるものもありません。音は全ての音楽の基本的要素です。しかし単なる「音」だけでは十分ではありません。全ての楽器の奏者は、「単なる音」を「美しい音」に変えてしまう、不思議な魔法のような繊細さを育てていかなくてはなりません。練習している目的が何であっても、「音」のことを考えていなければなりません。

“道具”は、当然の事ですが、あなたがどんな音を出すのかを決める大きな役割を持っています。マウスピースでは…カップ、リム、スロート、ボア、バックボア…。楽器では…調、ボアサイズ、テイパー、ベルサイズ、金属の厚さ…。

これらのことは全て音に影響を与えます。そしてもちろん、肉体的な特徴も同じです。口の中、歯、肺活量など。また息をどのように使うかということも音に影響します。

これほど多くのことを考えなければいけないのなら、一体どこからスタートすればいいのでしょうか。

あなたが今持っている物で、今いるところ

からスタートすればいいのです。最も「美しい音」で演奏し、それを上達の基本としてください。

音程

音程良く演奏するということは、音程をよく聞くことから始まります。一旦音程に対して注意し、敏感に聞くという訓練ができ、心の中の耳で聞こえる音程を出せるまで楽器をコントロールできるようになったら、あとは自分の演奏する場で、柔軟な妥協できる耳で音楽をするだけです。どんな人も、いつも完璧な音程で演奏はできません。もしアンサンブルの他の人の音程が高い時や低い時に、自分だけ“完璧な音程”で吹こうと思っただけです。一般的に、アンサンブルの中では一番高い音域の人に音程を合わせるべきです。ということはピッコロ奏者よりもチューバ奏者の方が、音程に妥協しなければいけない立場に置かれることが多いのです。“音”と同じように、演奏するときにはいつも音程のことを考えなければいけません。

音量

音量は音ととても関係が深く、切り離すことは難しい。音量とはもちろん音楽の音の大きさと小ささ（*f-p*）です。音量のコントラストがないと音楽はとてつもらなくなり、音楽的表現の可能性も少なくなってしまいます。楽器を演奏する奏者にとって、音量のしなやかさはとても大切です。

P 7

音量の変化をどのようにつけるかということには人の本質的なことが影響するので、とても個人差があります。一般的に、音量と共に音色も変わります。大きな音量で吹くと、より多くの高い倍音が聞こえます。自分自身の耳を信じなさい。

リズム

リズムとは、音楽が機能するための時間組み立てです。多くの場合、音符で表している数学的な表示よりも深い意味です。音や音程と同じように、かするためには、演奏を始め、そのリズムを聞かなければ、リズム感を持って進んで人に、のウォー

A close-up, black and white portrait of Roger Bobo, an older man with a full white beard and mustache, looking directly at the camera. The image is slightly faded and serves as the background for the title page.

ROGER BOBO

Mastering the Tuba

Complete book

La maîtrise du tuba

Cahier complet

Die Meisterschaft der Tuba

Komplett

SOMMAIRE

CONTENT

INHALT

2	Introduction	Introduction	Einführung
3	Les aptitudes techniques	The technical skills	Technische Fähigkeiten
6	Les aptitudes musicales	The musical skills	Musikalische Fähigkeiten
8	Comparaison de résistance	Resistance comparison exercise	Vergleich des Anblaswiderstandes
8	Exercices à l'embouchure	Mouthpiece exercises	Übungen mit dem Mundstück
10	Warm up de base et variations	Basic warm up and variations	Grund-Warm up und Varianten
14	Contrôle de justesse dans le grave	Low register intonation check	Intonations-Kontrolle im tiefen Register
15	Legato et relaxation	Legato and relaxation	Legato und Entspannung
18	Contrôle de la respiration	Breath control	Atemkontrolle
21	James Stamp: modifications 1 - 2	James Stamp: modifications 1 - 2	James Stamp: Abwandlungen 1 - 2
26	Exercices en octaves	Exercises in octaves	Oktavübungen
30	Articulations en gammes	Scales in articulation	Artikulationen in Tonleitern
34	Fusion chromatique du registre aigu	Chromatic (high) register blending	Chrom. Register-Fusion (hohe Lage)
35	Flexibilité (souplesse)	Flexibility	Flexibilität
39	Exercices de souplesse dans le grave	Low register flexibility exercises	Flexibilität's Übungen im tiefen Register
47	Trille labial	Lip trills	Lippentriller
54	Supplément de souplesse (aigu)	Flexibility supplement (high range)	Zusatz zur Flexibilität (hohe Lage)
55	Respiration continue	Circular breathing	Zirkular-Atmung
57	Comblir les "trous d'air"	Playing over the break	Über die "Luftlöcher" hinweg spielen
59	Vibrato	Vibrato	Vibrato
60	Supplément de souplesse (exemples)	Flexibility supplement (examples)	Zusätzliche Flexibilitätsübungen (Beispiele)
61	Formule de clarification 1 & 2	Formulas for clarity 1 & 2	Klarheitsübungen 1 & 2
63	Entraînement de l'oreille pour l'aigu	Ear training in the high register	Gehörschulung für die hohe Lage
63	Aborder un trait technique	Approaching a technical passage	Angehen einer technischen Stelle
60	Conclusion	Conclusion	Schlusswort



Cette nouvelle édition révisée et augmentée (complète) remplace définitivement l'édition précédente, sous-titrée "Book 1".

This new revised and enlarged (complete) version replaces definitively the previous edition undertitled "Book 1".

Diese neue, revidierte und erweiterte (vollständige) Ausgabe ersetzt endgültig die frühere Ausgabe "Book 1".

BIM TU5 • ISMN 979-0-2070-0234-1

© World copyright 1993 by ÉDITIONS BIM (Jean-Pierre Mathez) - revised, completed edition 2003

Tous droits réservés - All rights reserved - Alle Rechte vorbehalten

INTRODUCTION

Les instruments de musique ne sont que des outils que l'on choisit par goût personnel pour pouvoir s'exprimer musicalement. Pour que cela devienne de la musique, il faut que l'outil fonctionne. Il en va de même pour l'habileté du musicien. Cette habileté doit être développée et entretenue. Dans mon enseignement, j'ai toujours placé la musicalité au-dessus de tout et je reste convaincu qu'il faut que cela soit ainsi, mais il n'en est pas moins évident aussi que pour exprimer correctement une idée musicale il est indispensable d'en maîtriser la réalisation. On trouvera des exercices adaptés de cahiers d'études conçus pour d'autres instruments et des exercices originaux qui tous sont utiles. Chaque instrumentiste a besoin de découvrir sa mise-en-train personnelle idéale. Elle sera différente pour chacun et variera même quotidiennement. C'est là que se trouve l'astuce: bien qu'aucun ouvrage ne puisse véritablement guider un musicien vers sa mise-en-train optimale, j'ai réuni suffisamment de matériel dans ce cahier pour pouvoir offrir à chacun un large éventail de solutions.

Les exercices de ce cahier sont très faciles à mémoriser; jouez-les dès que possible par cœur. Essayez de varier le menu chaque jour. Ayez le courage de faire des expériences. Ces exercices ne sont que des embryons d'idées. Soyez votre propre maître: un maître patient, persévérant, sage et attentionné. Devenez conscients de vos besoins personnels et apprenez à ressentir les joies que procure la pratique musicale. Enfin, travaillez comme un bon élève, en cherchant l'équilibre entre la patience et la persévérance.

Les quatre questions

Un problème surgit? Arrêtez-vous et posez-vous calmement les questions suivantes:

- Qu'est-il arrivé?
- Où est-ce arrivé?
- Pourquoi est-ce arrivé?
- Comment corriger?

Pourquoi la clé de Sol?

Les trompettistes se sont familiarisés avec des instruments construits dans toutes sortes de tonalités. Selon le registre et la tonalité d'une œuvre, la plupart des instrumentistes choisiront la trompette la plus appropriée à une exécution optimale.

Cette procédure s'est également imposée chez les tubistes; il n'est pas rare de les entendre jouer des tubas basses en Sib, Do, Mib, Fa ou des tubas ténors en Sib (euphonium) ou même dans des tons encore moins courants tels que Ré ou Sol.

Partant de l'idée que ce cahier peut être travaillé avec des tubas de toutes tailles et

INTRODUCTION

Music instruments are only tools, personally chosen tools, for expression through music. In order to make music, the tools must work. So is it with the skills of playing music. In order to play music the playing skills need to be developed and maintained. I am a teacher who has always put musicality above all else. I still strongly believe in this, but of course for any musical idea to function, our playing skills have to work too. Many of these exercises are modifications of exercises for other instruments, many are original, all of them are good.

Every player needs to discover his own optimum warm-up. Of course it will change from person to person and for a single musician it will change from day to day. That's the trick; no book can guide a player through his optimum personal warm-ups, but I sincerely hope that the materials in this book will help you find your best path.

The exercises in this book are very easy to memorize; leave the book out of the warm-up process as soon as possible. Change the routine in some way everyday. Have the courage to experiment; these exercises are only starting ideas. Be your own teacher: a patient, persevering, wise and kind teacher, a teacher who is keenly aware of your personal needs, and a teacher who knows the joys of making music. Now proceed as a student with a balance of patience and perseverance.

The Four Questions

If you have a problem, stop, take a breath and ask yourself:

- What happened?
- Where did it happen?
- Why did it happen?
- How do I fix it?

Why Treble Clef?

Trumpet players are familiar with instruments in a wide variety of keys. Depending on the range and key of the piece and the size of the ensemble, most players are accustomed to selecting a trumpet that will best meet their needs for that piece.

This is becoming the accepted trend among tuba players as well; it is not uncommon to hear tubists perform on instruments in BBb, CC, Eb, F, tenor tuba in Bb (euphonium) or even in more unusual keys such as D or G. In order that this book may be used with tubas of all sizes and pitch (as well as other members of the brass family: trumpet, horn,

EINFÜHRUNG

Musikinstrumente sind nur Werkzeuge, die jeder persönlich auswählt, um sich musikalisch ausdrücken zu können. Um Musik machen zu können, muss das Werkzeug funktionieren. Genauso verhält es sich auch mit dem Geschick, Musik zu spielen. Dieses Geschick muss entwickelt und gepflegt werden. In meinem Unterricht habe ich die Musikalität immer über alles gesetzt, und ich bin überzeugt, dass dies so sein muss; es ist aber genau so klar, dass zum korrekten Ausdruck einer musikalischen Idee eine Beherrschung der Realisierung notwendig ist. Viele dieser Übungen wurden adaptiert von Studien für andere Instrumente, viele sind original. Alle haben ihren Nutzen.

Jeder Blechbläser muss seine persönliche ideale Einspielpraxis finden. Sie wird für jeden verschieden sein und sogar von Tag zu Tag variieren. Dies ist der springende Punkt: Kein Werk kann einen Musiker wirklich zu seiner optimalen Einspielpraxis führen, ich habe aber in diesem Heft genug Material gesammelt, um jedem eine grosse Auswahl an Lösungen anzubieten.

Die Übungen dieses Heftes sind sehr leicht auswendig zu lernen; spielen Sie sie sobald wie möglich auswendig. Versuchen Sie, täglich das Menü zu wechseln. Haben Sie Mut zum Experimentieren. Diese Übungen sind nur Keimzellen von Ideen. Seien Sie Ihr eigener Lehrer: ein geduldiger, ausdauernder, weiser und freundlicher Lehrer, der Ihre persönlichen Bedürfnisse und die Freude kennt, welche die musikalische Praxis schenkt. Üben Sie wie ein guter Schüler, im Gleichgewicht zwischen Geduld und Ausdauer.

Die vier Fragen

Taucht ein Problem auf, halten Sie ein und stellen Sie sich folgende Fragen:

- Was ist passiert?
- Wo ist es passiert?
- Warum ist es passiert?
- Wie korrigieren?

Warum der Violinschlüssel?

Die Trompeter sind vertraut mit Instrumenten in verschiedenen Stimmungen. Je nach Register und Tonart eines Werkes wählen die meisten Bläser die zur Ausführung optimal geeignete Trompete.

Dieses Vorgehen hat sich auch bei den Tubisten eingebürgert; es ist nicht selten, dass sie Bass-Tuben in B, C, Es, F oder Tenor-Tuben in B (Euphonium) oder sogar in noch selteneren Stimmungen wie D oder G wählen.

In der Absicht, dass dieses Heft mit Tuben aller Grössen und Stimmungen (und sogar von anderen Instrumenten der Blechbläserfamilie) geübt werden kann, wurden

de toutes tonalités (et même avec d'autres instruments de cuivre), la plupart des exercices ont été écrits en clé de Sol.

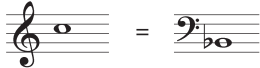
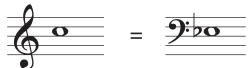
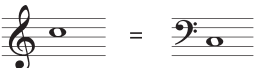
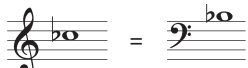
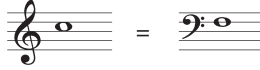
trombone, etc.), most exercises have been written in the treble clef.

die meisten Übungen im Violinschlüssel geschrieben.

La tonalité de l'exercice correspond à la tonalité du tuba:

The pitch of the exercise is relative to the pitch of the tuba:

Die Tonart der Übung entspricht der Tonart der Tuba:

Pour un tuba basse Si $\flat$: For BB $\flat$ tuba: Für eine Bass-Tuba in B:		Pour un tuba en Mi $\flat$: For E $\flat$ tuba: Für eine Es-Tuba:	
Pour un tuba basse Do: For CC tuba: Für eine Bass-Tuba in C:		Pour un tuba ténor en Si $\flat$: For B $\flat$ tenor tuba: Für eine Tenor-Tuba in B: (Euphonium)	
Pour un tuba en Fa: For F tuba / Für eine F-Tuba:			

Chaque exercice devrait donc être joué dans la tonalité du tuba que l'on a en main. Cela élimine le problème d'une éventuelle transposition, avec les risques de dépassement de tessiture que cela impliquerait selon les modèles. Cela signifie également que les séquences de doigts restent identiques avec chaque tuba. Par exemple, une séquence jouée sans pistons sur un tuba basse en Si $\flat$ sera également jouée sans pistons sur un modèle en Do, en Mi $\flat$, en Fa ou sur un tuba ténor.

Each exercise should be played in the key of the tuba being used. This eliminates the need for transposition which may take the exercise out of the range of any particular tuba. It also means that the fingering patterns are always the same for any tuba. For example, a sequence that is played with no valves on a BB $\flat$ tuba should also be played with no valves on a CC tuba, E $\flat$ tuba, F tuba or tenor tuba.

Jede Übung muss also in der Tonart der Tuba gespielt werden, die man in der Hand hat. Dies vermeidet Probleme einer eventuellen Transposition, birgt aber das Risiko, dass bei gewissen Modellen das Register überschritten wird. Es bedeutet auch, dass die Griffsequenzen auf jeder Tuba identisch bleiben. Beispielsweise wird eine Sequenz ohne Ventilgebrauch auf einer Bass-Tuba in B auch auf einem Modell in C, Es, F oder auf einer Tenor-Tuba ohne Ventil gespielt.

LES APTITUDES TECHNIQUES

Position du corps et tenue de l'instrument

La tenue du tuba devrait être naturelle. En plaçant l'embouchure sur les lèvres, il faudrait être parfaitement à l'aise, sans être tendu vers le haut ou courbé vers le bas. Une position correcte n'est pas seulement favorable à une respiration naturelle, elle est plus esthétique. La main gauche sert essentiellement à maintenir la stabilité de l'instrument, ce qui laisse à la droite la liberté de mouvement pour les doigts.

Embouchement

Les musiciens de cuivre et les chanteurs sont les seuls musiciens dont l'émetteur de son est organique. Il s'agit donc de l'entretenir et de le maintenir en parfaite condition. Un athlète n'ira pas se lancer sur un 100 mètres de compétition sans s'être échauffé. Un danseur de ballet ne se lancera pas sur scène avant d'avoir travaillé à la barre. Plus spécifiquement, un chanteur n'entrera pas en scène avant d'avoir fait ses vocalises.

THE TECHNICAL SKILLS

Posture and instrument position

Holding the tuba should be natural. As you place the mouthpiece on your lips in playing position you should be comfortable, not stretching too high or bending too low. Not only does this help you be in the position for natural breathing, it simply looks better. The left hand is primarily responsible for the stability of the instrument, - this leaves the right hand free for fingering responsibilities.

Embouchure

Brass players, along with singers, are the only musicians whose source of tone is organic. Because your embouchure is organic, you must take care of it and keep it healthy. An athlete will not run a 100m dash before he has stretched (warmed up). A ballet dancer will not perform until he has done a bar (warmed up). More closely related, a singer does not perform until he has vocalized (warmed up). The embouchure, the lips,

TECHNISCHE FÄHIGKEITEN

Körperhaltung und Position des Instrumentes

Das Halten der Tuba sollte natürlich sein. Beim Ansetzen des Mundstückes sollte man sehr bequem sein, nicht nach oben gestreckt oder nach unten gebeugt. Eine korrekte Haltung ist nicht nur für eine natürliche Atmung günstig, sie ist auch ästhetischer. Die linke Hand ist vor allem zur Stabilisierung des Instrumentes einzusetzen, was der rechten Hand die Bewegungsfreiheit für die Fingergriffe gibt.

Ansatz

Die Blechbläser und Sänger sind die einzigen Musiker, deren Tonproduzent organisch ist. Es geht also darum, ihn zu pflegen und in perfekter Kondition zu halten. Ein Athlet wird kaum einen 100m-Lauf rennen, ohne sich warmgelaufen zu haben. Ein Ballett-Tänzer wird kaum auf die Bühne gehen, bevor er am Barren eingeturnt hat. Noch spezifischer, ein Sänger wird nicht auf die Bühne treten, bevor er seine Vokalisen gemacht hat. Der

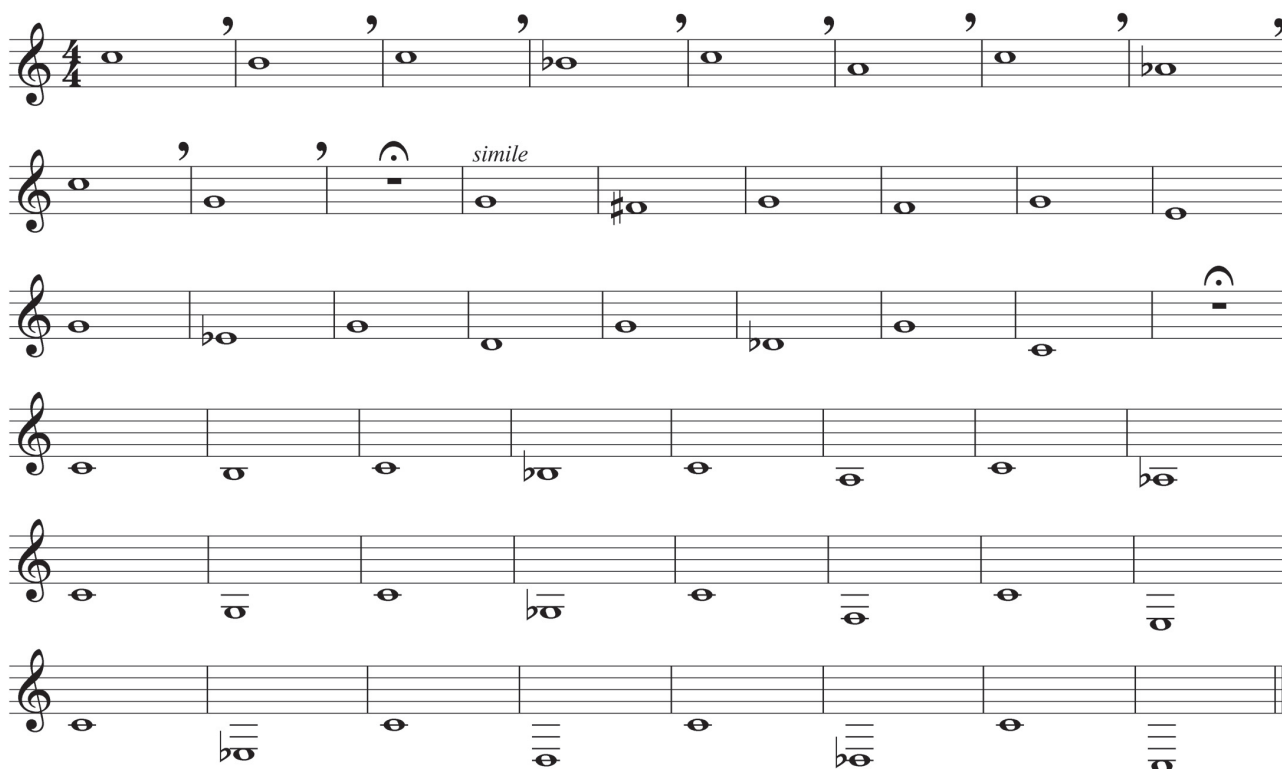
C'est également un exercice d'articulation, assurez-vous que les attaques et les terminaisons soient pareilles pour chaque note. Gardez présent à l'esprit, la qualité du son, l'intonation, le volume dynamique et l'articulation. Pensez-y consciemment, puis "oubliez" en faisant confiance à votre conditionnement. Si vous ne parvenez pas à jouer toutes les notes graves sur votre tuba, faites le mieux que vous pouvez en cherchant d'autres doigtés. Prenez une grande respiration à chaque mesure, que vous en ayez besoin ou non.

the same throughout with no diminuendo (remember: more air is needed in the lower register). It is also an articulation exercise; make sure the attacks and releases stay the same throughout.

Remember, be aware of tone quality, intonation, dynamic and articulation. Think about them all - then forget about them and trust that they will function. If all the low notes are not playable on your tuba, do the best you can with fake fingerings. Take a breath every bar whether you need it or not.

die tiefe Lage mehr Luft verlangt). Es ist auch eine Artikulationsübung, versichern Sie sich, dass die Ansprache und das Ende eines jeden Tones gleich sind.

Denken Sie gleichzeitig an die Klangqualität, die Intonation, die Dynamik und die Artikulation. Denken Sie bewusst daran, dann "vergessen" Sie alles, und vertrauen auf das Eingebte. Falls Sie nicht alle tiefen Töne blasen können, versuchen Sie Ihr Bestes, indem Sie andere Fingersätze suchen. Atmen Sie für jeden Takt tief ein, ob Sie es brauchen oder nicht.



Échauffement de base

1 Les exercices suivants sont simplement des variations de l'échauffement de base au niveau du volume dynamique, de l'articulation et des rythmes. Débutez chaque note avec une attaque claire et égale et maintenez exactement le même volume sonore du début à la fin. Gardez également le même volume dynamique à mesure que vous descendez dans le grave. Prenez une respiration à chaque mesure, que vous en ayez besoin ou non.

Basic Warm up

1 The next series of exercises are simply dynamic, articulation and rhythmic variations of the Basic Warm up. Start each note with a clear and uniform attack and maintain the same dynamic throughout the note as on the attack. Stay at the same dynamic as you get lower. Take a breath every bar whether you need it or not.

Grundeinspielung

1 Die folgenden Übungen sind einfach Variationen im Klangvolumen, der Artikulation und dem Rhythmus der Grundeinspielübungen. Beginnen Sie jeden Ton mit klar gleichmäßigem Anstossen und halten genau die gleiche Dynamik von Anfang bis Ende ein, auch wenn Sie ins tiefe absteigen. Atmen Sie vor jeder Übung ein, ob nötig oder nicht.



$\text{♩} = 60$

The musical score is written on 12 staves in 4/4 time. The tempo is indicated as $\text{♩} = 60$. The key signature starts with one flat (B-flat) and changes to two sharps (D major) at the beginning of the 10th staff. The melody is composed of eighth and quarter notes, with many measures containing beamed eighth notes. The first half of each staff (measures 1-4) is often grouped with a slur. The second half (measures 5-8) typically starts with a quarter rest followed by a melodic phrase. The piece concludes with a final melodic phrase on the 12th staff.

$\text{♩} = 60$ En mineur / In minor / In Moll

The musical score is written for a single melodic line in 4/4 time. It consists of 12 measures, each containing a half note followed by a quarter rest. The notes are: 1. Bb, 2. Bb, 3. Bb, 4. Bb, 5. Bb, 6. Bb, 7. Bb, 8. Bb, 9. Bb, 10. Bb, 11. Bb, 12. Bb. The notes are grouped by a slur across the first half of each measure. The key signature changes from one flat (B-flat) to one sharp (F#) for measures 7-12.



MUSIC FOR TUBA & PIANO

ADAMS Byron (1955)

TU104 **Suite on Old Nautical Airs** tuba & piano (1999 - 14' - diff. 2)

ADJEMIAN Vartan (*1956)

TU133 **Fantasia** tuba and piano (1996 - 11' - diff. 4-5)

ARUTIUNIAN Alexander (1920-2012)

TU27a **Concerto** for tuba & symphony orchestra (1992 - 15')
tuba & piano reduction
(also available tuba & orchestra or tuba & wind band)

AZEVEDO Carlos (*1964)

TU127 **XL** tuba and piano (2006 - 7' - diff. 5)

BAADER-NOBS Heidi (*1940)

TU21 **Bifurcation** tuba & piano (diff. 5-6)

BOCCHERINI Luigi (1743-1805)

TU204a **Concerto No. 9** tuba & piano (17' - diff. 5) adapt. Roland Szentpali

CASTRO D'ADDONA Giancarlo (*1980)

TU186a **Concerto for Tuba** tuba & piano red. (2007 - 18' - diff. 5)

CHEBROU Michel (*1954)

TU82a **Tubafolia - Concerto** for tuba (1999 - 20' - diff. 4)
tuba and piano - (also available tuba & wind band)

CHERUBINI Luigi (1760-1842)

TU148 **Sonata** tuba & string quartet (4' - diff. 4) arr. R. Szentpali

CRAUSAZ Etienne (*1981)

TU176 **Eastern Folk Dances** tuba and piano (2011 - 10' - diff. 4)

TU177 **Eastern Folk Dances** tuba & accordion (2011 - 10' - diff. 4)

FELDMANN Eugen (*1967)

TU200 **Sonatine** tuba & piano (2000 - 10' - diff. 4-5)

TU199 **Tuba Sonata** tuba & piano (1999 - 18' - diff. 5)

FILAS Juraj (*1955)

TU34 **Sonata** tuba & piano (1991 - 15' - diff. 4-5)

FORBES Michael (*1973)

TU209a **Alpine Concerto** tuba & piano (2019 - 19'15' - diff. 5) (orche. vers. available)

TU172a **David & Goliath** tuba & piano (2010 - 10' - diff. 4-5)

GORB Adam (*1958)

TU87 **Straitjacket** tuba and piano (2002 - 11' - diff. 4-5)

GOWER Albert

TU72 **Sonata** tuba & piano (diff. 4-5)

GULYA Robert (*1973)

TU91 **Burlesque** for tuba & piano (1995 - 3'40 - diff. 5-6)

IONEL Dumitru (1915-1997)

TU48a **Concerto No 1** tuba & orchestra (1958 - 20' - diff. 4)

tuba & piano (also available tuba & orchestra version)

TU47 **Fantezie nocturna** tuba & piano (1956 - 7'30 - diff. 3)

TU45 **Galop** tuba & piano (1976 - 2' - diff. 3)

Konzertstück tuba & string orchestra (1960 - 11' - diff. 4)

tuba & piano (tuba & strings also available)

TU41 **Musical Joke** tuba & piano (1948 - 2'15 - diff. 3)

TU38 **Rondo International** tuba & piano (1970 - 2'30 - diff. 2-3)

TU22a **Rumanian Dances No. 1 - 6** tuba & piano (1948 - diff. 4-5)

TU36 **Visare (Dreaming)** tuba & piano (1964 - diff. 2)

JEVTIC Ivan (*1947)

TU84 **Balkan's Ayers Rock** tuba & piano (2000 - 9' - diff. 4-5)

Concerto tuba & orchestra (1992 - 22' - diff. 5-6)

TU26a tuba & piano reduction (orchestra version also available)

KELLAWAY Roger (*1939)

TU79 **Dr Martin Luther King, in Memoriam** tuba & piano (1984 - 15' - diff. 5)

TU1a **Morning song** tuba & piano (original) (1979 - 7' - diff. 4-5)

TU1b/c **Morning song** tuba & brass band (arr. Pascal Favre)

Songs of Ascent tuba & symph. orchestra (1988/9 - 26' - diff. 5)

tuba & piano reduction (orchestra version available)

TU11 **Westwood Song** tuba & piano (1975 - diff. 5-6)

KOETSIER Jan (1911-2006)

Concertino op. 77 tuba & string orchestra (1978/82 - 15' - diff. 4-5)
tuba & piano (version with strings also available)

KROL Bernhard (*1920)

Falstaff Concerto tuba & string orchestra (diff. 4-5)

TU13a tuba & piano (version with strings also available)

LORETO Francisco (*1974)

TU111 **SoNotas** tuba & piano (2005 - 7'30 - diff. 4-5)

MARCELLO Benedetto (1686-1739)

TU149 **Sonata** op. 2, No.1
tuba & harpsichord (piano) (6'15 - diff. 3-4) arr. R. Szentpali

MARQUES Telmo (* 1963)

TU116 **Allegro Sonata** tuba & piano (2006 - 4' - diff. 5)

MEIER Jost (*1939)

TU16a **Eclipse finale?** tuba & piano (18'30 - diff. 5)

MICHEL Jean-François (*1957)

TU180 **3 Bagatelles** tuba & piano (11'40 - diff. 4-5)

MOZART W. A. (1756-1791)

TU59 **O Isis and Osiris** tuba & piano (3' - diff. 2-3) arr. Winston R. Morris

PAUER Jiri (*1919)

TU19 **Tubonetta** tuba & piano (diff. 4-5)

PLOG Anthony (*1947)

3 Miniatures (7' - diff. 4-5)

TU23a tuba & piano (tuba & wind band also available)

TB18 **Statements** tuba (contrabass trombone) & piano (2'20 - diff. 3-4)

Tuba Concerto tuba & symphony orchestra (1997 - 22' diff. 5)

tuba & piano reduction (orchestra version also available)

TU123 **Tuba Sonata** tuba and piano (2007 - 16'30 - diff. 5)

TU181 **Walking** tuba and piano (2014 - ca. 3'30 - diff. 4)

RODGERS Thomas

TU60 **Chaconne** tuba & piano (diff. 3-4)

ROGGEN Dominique (*1948)

TU211a **Concerto Grosso in La minore** tuba & piano red. (16' - diff. 5)
(also available for tuba, strings & basso continuo)

ROMHANYI Aron (*1974)

TU141 **Parallels** tuba & piano (10' - diff. 6)

SAGLIETTI Corrado Maria (* 1957)

Concertissimo tuba & wind band (17' - diff. 4-5)

TU52a tuba & piano (wind band version also available)

TU4a **Concerto** tuba & piano (9'45 - diff. 4)

SASS Jon (*1961)

TU124 **The Jon Sass Bassline Book** tuba and play along CD
(or sousaphone, bass trombone, euphonium) 2007 - diff. 4)

STEPTOE Roger (*1953)

TU135 **Sonata** Tuba & piano (2006/2007 - 22' - diff. 4-5)

STEVENS John (*1951)

TU140 **Autumn** Tuba (or Euphonium) & piano (2009 - ca. 6' - diff. 4)

Journey tuba & orchestra (1998 - 28' - diff. 4)

orchestra: 3.2.2.2. - 2.2.2.0. - timp, perc, hp & strings

contrabass tuba & piano reduction (orchestra version available)

Liberation of Sisyphus (1999 - 10'50 - diff. 5-6)

TU9a tuba & piano

Monument tuba and string orchestra (2007 - 9' - diff. 5)

tuba & piano reduction (tuba & string orch. also available)

STEVENS Thomas (*1938)

Aria con variazioni tuba & strings (2006 - 5' - diff. 4-5)

TU113a tuba and piano (tuba & string orch. also available)

Variations in Olden Style tuba & strings (8' - diff. 5)

TU8a tuba & piano (tuba & string orch. also available)

STRUKOW Valery (1937-2005)

Concerto tuba & symphony orchestra (diff. 5-6)

tuba & piano reduction (orchestra version also available)

TU24 **Elégie** tuba & piano (3' - diff. 2)

TU14 **Tuba Quartett** 4 tubas (diff. 3-4)

SZENTPALI Roland (*1977)

TU109a **Allegro Fuoco** tuba and piano (2005 - 4'30 - diff. 4)

Ballade tuba & string quartet (2002 - 11' - diff. 5)

for solo tuba & piano (tuba & strings also available)

TU93a **Carmen Fantasy** (2007 - 9' - diff. 5)

tuba & piano (tuba & orch or wind band available)

Concerto tuba & orchestra (2002 - 17' - diff 5-6)

TU96a tuba & piano reduction (tuba & orch or wind band available)

TU156a **Melton 200** tuba and piano (2010 - 6' - diff. 5)

(also available: version for tuba, flute, cello, piano, ref. BIM TU156b/c)

TU169 **Pearls III** tuba and piano (+opt. 3 backgrounding tubas)
(2010 - 10'30 - diff. 6)

TU171 **Visions** tuba (and piano ad libitum) (2012 - 21' - diff. 6)

THIBAUT Thierry (*1963)

TU128 **3 Danses** tuba and piano (2007 - 9'30 - diff. 4)

TU129 **Frères de la brume** euphonium (saxhorn), tuba & piano (2004 - 8' - diff. 4)

YANOV-YANOVSKI Felix (*1934)

TU187a **Fabula 6** tuba & piano (2009/2013 - c.12' - diff. 4-5)

(Versions for tuba, timpani & low brass ensemble [TU187d/e]
or tuba, timpani & low strings [TU187b/c] also available)

ZAMECNIK Evzen (*1939)

TU35 **Concertino** tuba & piano (1999 - 15' - diff. 4)

ZBINDEN Julien-François (*1917)

TU184a **Tuba Concerto** op. 112 tuba & piano (2014 - c.15' - diff. 4)
(tuba & orchestra version also available)